

対話検 × 模擬検 交流会

交流会に至った経緯と目的

2026年3月9～10日、大阪教育大学にて東京学芸大学（学卒院生M2:5名、M1:3名）と大阪教育大学（M2:5名）による交流会を開催しました。目的は「模擬授業検討会で院生は何を得たのか」を探ることです。学芸大側は、教員の指導に頼らず院生間の対話で授業改善のヒントを探る「対話型模擬授業検討会（対話検）」を実践してきましたが、その成果は言語化しにくいという課題がありました。そこで、授業検討の文化は共通しつつも、方法が異なる大教大へ越境することで互いの学びを言語化する試みを行いました。既に2回の交流を終え、3回目となる今回は互いの検討方法をシャッフルして体験するワークショップと座談会を実施。異なるコミュニティの文化に身を置くことで、自らの学びの特質を浮き彫りにする場になりました。

Vol.3



対話検と模擬検の違い

交流会の概要

学芸
(対話検)

- 授業20分＋検討会30分
- 学習者視点になって検討
- 大学院の授業で行われる

大教大
(模擬検)

- 授業50分＋検討会約2時間
- 授業者の「願い」が見えるまで行う
- 有志サークルとして行われる

Day1

- アイスブレイク
- 模擬検（授業者：学芸大）
- 対話検（授業者：大教大）

Day2

- 座談会
- 大教大八田准教授による授業・模擬検



2日間の様子

模擬検は、学芸チームによる中学国語と高校社会の模擬授業をもとに行った。グラフィッカーのファシリテーションのもと、授業者・学習者の授業内の行為、思考、感情、望んだことを順に振り返った。授業者・学習者間のズレから「本質的な諸相」を引き出す場面では、全員が納得するまで終わることができないという緊張感が漂う。辛抱強く議論を重ねて結論が出たときには、全員がスッキリした表情を見せていた。その後、授業者が「HOPE」を開示する場面では、授業観や苦悩が物語られた。3時間の模擬検が終わると、「長かったねえ。」と笑い合った。

対話検は、大教チームによる小学校道徳と中学数学の模擬授業をもとに行った。学習者は考え、感じ、望んだことを発散的に語り、グラフィッカーが整理した。授業者・学習者間にズレが見られた場面では、その要因を巡り、議論が活発に行われた。終了後も、各々の抱いた「モヤモヤ」を語り合う姿が見られていた。

座談会では、対話検・模擬検を経験した率直な感想、それぞれの強み、自己の変容など、様々な視点から語り合った。

交流会を終えて～M1・M2の振り返り～

M2 小学校社会



論理的に構造化する「模擬検」と、感情の網目から探る「対話検」。手法は違えど他者の視点で自明の世界を揺さぶられる経験は共通していました。検討会とは、授業改善以上に、自身の教育観を剥き出しにし、吟味し続ける場。そこで得た暫定解を抱え、葛藤しながら来年から教壇に立ち続けます。

一人で悩まなくても皆と一緒に考えられる安心感の中、「授業の本当の狙い」を掘り当ててもらった経験をしました。授業者の「授業構想時の狙い」「授業中に起きたこと」と、学習者視点の「実際に受けとめたこと」を対話の場に出し、皆で授業という複雑な出来事をほぐしていく感覚がありました。



M2 中高国語

M1 小学校算数



校種、専攻が異なる人と一緒にその場で作り上げる検討会で、何かに気づく経験を大切に、楽しみたいと、改めて思えました。授業者ではなく、他者（検討会における学習者の存在）の気づきや学びも実現できるような検討会を模索したいです。

検討会をする意義として私がこの2日間で感じたことは「授業観の表出」でした。どのような授業を行いたいか、どのような教育者でありたいかということの一端が見えるかけがえのない機会だと捉え直すことができました。



M1 小学校算数

M1 小学校理科



「学習者になる」意味を考えました。皆さんにも、是非自分に問うて欲しいです。模擬授業や講義をどんな気持ちで受けていますか。自分が学習者の時、何を学び持ち帰りたいのか。常に学び手の視点を忘れてはいけなかったと思います。

授業検討会が、授業の検討だけでは終わらず、対話検も模擬検も、模擬授業から派生して議論するのが印象的でした。その授業から考えたことや教訓を深く議論しようと努力できる仲間がいる環境は貴重だと感じました。



M2 高校社会

M2 小学校国語



これまでの私の教師観は、子どもを無視して、想定通りの授業を良しとするものでしたが、彼らを受け身にさせていたのは私でした。今は、模擬検を通じて見つけた本気でぶつかり合えるような情熱を持って授業を行い、想定を超えた子どもとも素直にぶつかり合いたいと考えています。

模擬検がDoからロジカルに教師と学習者のズレを分析するのに対し、対話検は感情を入りに網の目状に思考を広げる緩やかさが魅力です。正直、検討会でスッキリしたことは殆どありません（笑）。でも、そのモヤモヤこそが自らの教育観を問い直す大切な種になります。検討会で見つけた「暫定解」を、現場で解き続ける宿題として持ち帰る。それがこの場の醍醐味なのだろうなあと感じました。



M2 小学校国語